

## 日常生活での支援について考える

～私たちの関わりと取り組みで  
利用者の方々の笑顔を増やそう！～

【日中活動を盛んにすることでどんな変化があるのか】

特別養護老人ホーム さつき園  
介護職員 服部守孝 亀井沙矢香

平成16年4月 開設

生きる喜び・  
生きる意欲を持てる  
ホーム

## ユニットケアとは？

「ユニットケア=個室」

### 個室が**孤室**になっていないか？

- ・建物だけのユニット型施設？
- ・建前で行うしかないの？
- ・理念「生きる喜び 生きる意欲」  
理念を活かした支援を意識しているか？

・疑問  
・矛盾  
理想と現実

職員  
の  
意識  
改革

業務優先の介護から利用  
者優先の介護へ！

利用者の方々を「支配」するの  
ではなく「支援」しよう！

利用者の方々の生活の  
場所である。

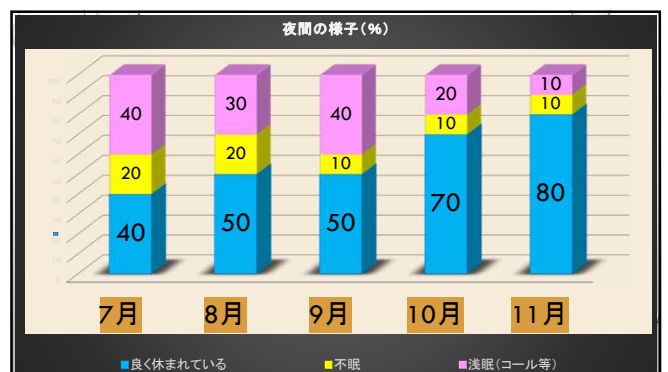
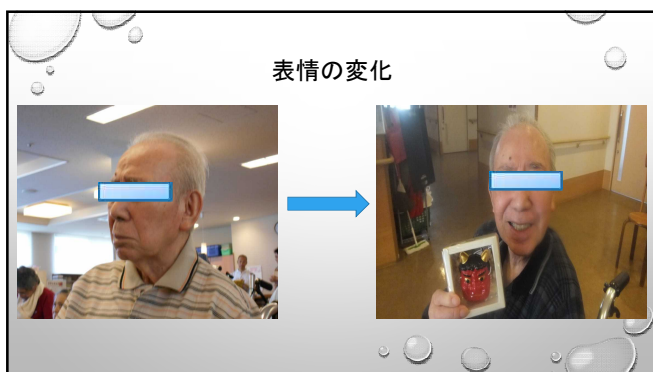
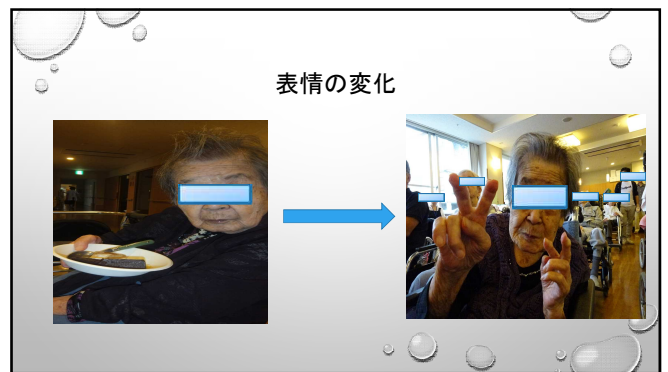
### ★研究のねらい★

職員が意欲的に関わり日中活動を  
盛んにすることで  
利用者の方々への生活が  
どのように変化していくのか？

そして職員自身の意識の変化やケアにも着目してい  
研究後の職員の意識の変化を考察する。

### 研究内容と方法

- ・職員の意識改革を行い業務中心の介護から入居者様中心  
の介護を一人ひとりが心がけ入居者様と積極的に関わる
- ・職員と入居者様と一緒に行える行事を計画して一緒に楽しむ
- ・地域の方々とも関わる機会を作る
- ・自分たちが支援した内容や入居者様の反応を記録に残す  
写真をたくさん撮り研究前と後の入居者様の変化を見る



## まとめ 考察

- 「生きる喜びや意欲」を感じるということは、利用者様が一番望んでいる支援ではないかとあらためて感じました。そして理念を活かして現場に活用していくためにも利用者様の方々の思いに対して、もっと関わりを深め向き合うことが必要と思いました。
- しかしそれらのことを職員一人ひとりに理解してもらうことは難しく、感情や人間関係もあり、すべての職員に関わることの大切さをうまく伝えられなかったこともあります。

「関わる時間」や「コミュニケーション」は、職員によって差が大きいこともありました。

しかし一人でも職員が積極的に関わることで利用者様は笑顔が増えました。そして笑顔のツボ(笑いのツボ、好きな言葉など)がわかる様になると業務優先だった職員もその支援を参考にして関わり易くなり、普段よりも関わりも増えていったように感じます。

研究を通して利用者の方々の笑顔を見ることで関わることの大切さを利用者様の方々に職員のほうが教えていただいたような気がしました。

写真を撮ることは出来ましたが自分たちの関わりを文章に残す事が充分に出来ず自分たちの支援(行動や言葉かけ)を表現化する文章を作成するのが困難であり、関わりを文章にして残すことが今後の課題となりました。

研究は終わりましたが、今後は「関わり」が研究課題ではなく普段から自然に普通に出来るよう、当施設の理念を活かした支援を継続していきたいと思います。



ご清聴ありがとうございました